

## 【22\_169思考系メルマガ】自分の『負けの傾向』を把握する

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

今週も1週間を無事に生きて終われてよかったです。

トレードの方も引き続き守り主体に、地味ながらも地に足付けてやっていきたいですね。

今日は お呼ばれイベント があるので、茨城某所まで車で行ってきます。

翌日帰宅次第、姉者妹者と公園で遊び倒すので、1週間の振り返りなど

トレード絡みのルーティンは一気に終わらせておきました(笑)

6月も折り返しに突入しますが、今月はボラティリティが高いのもあってか

今週の戦績も3勝4敗2分(利回り +34.5%、6月累計利回り +77.1%)

例月に比べると少々出来すぎな数字ですが、閑散期で均されると思うので

型通りに取れるときはしっかり取っておくこととします。

6月11日の鉄板セミナーで僕の取引履歴を見てもらった人は分かっていただけだと思いますが

勝率が5~6割程度であっても、自分の一貫した型に沿って、リスクリワードバランスを守ってトレードすれば

トータルの利益をプラスにすることは決して難しくありません。

それを実践するために大事な考え方が、今日の話のテーマに繋がっていきますので

トレードで勝ち残るために大事な『考え方』を腹に落としていきましょう。

テーマは『損切り(負け方)』についてです。

## 『損切りの 良し悪し』

これは、先日のモーニングライブでも話したことのリライト版になるので

もしよければ先にライブの方を見て頂くと、話が入りやすいかもしれません。

▼ライブのアーカイブ▼

<https://youtu.be/r8khrr1RePA>

トレードにおいて『損切り』というのは、常について回るモノですのでやはり同じ負けであってもその『内容』には是非ともこだわりたいところです。

ライブ内でも言及していますが、自分が決めた『型』の通りに決済した結果の損切りであればそれは文句なしに『良いトレード』と言ってよいでしょう。

あくまで、その『型』が長期的に観て利益を残せることが確認できている前提は必要ですがそれさえできていれば、決めた通りの損切りを行って、次のエントリーに備えることはいわゆる『必要経費』を払っているようなものです。

気にせず次のチャンスを待ちましょう。

対して良くないトレードの例として、映像内でも指摘したのが「利確を決めずにダラダラ保有する事」や「損切りを粘る」ことです。

中でも、「プラ転してくれるかもしれない」という淡い期待で損切りの位置を決めずに含み損を膨らませていくというのは、最も悪い手です。

これをやるから、ハイレバ口座でのゼロカット、退場 が後を絶たないのでしょね。

一度や二度経験するのは仕方ないとしても、それを幾度となく繰り返している人は

そろそろ考え方を変えていかななくてはなりません。

損切りのパターンの例は、簡単にツイートでもまとめたので

まだ見てない人は一度よく読んでみてくださいね。

▼当時のツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1537440360712241153?s=20&t=q36265DQaZnFyDRZdTcv8A>

これらの「良くない損切り」が起こってしまう根本的な原因は共通していて

「決めない(決められない)」事によって起こっています。

常々、僕はトレードは『確率論的思考』に基づいて『一貫した決めごと』の中でおこなうことが

継続的に稼げるようになる秘訣であると言い続けてきました。

その上で最も重要な考え方というのが『(自分で)決める』事なのです。

～～

(型として)決めた事だから、それに従って利確・損切りをする。

その決めごとの 外側 にある値動きにはいちいち反応しない。

～～

トレードでは、これを実践する事が最も難しいことの一つであると、僕自身も理解をしているのですが

この本質的な『考え方』こそが、手法を理解する事以上に重要なことなのです。

「利確を引き延ばす」ことも「損切りを粘る」ことも

これらは全て「先の見えない値動きに“自分都合な期待”をしている」から起こってしまう行動であり

これを続けている限り、ルールを守る事も、『一貫』したトレードを継続する事もできません。

常にどこかで「全資金を失う不安・恐怖」に憑りつかれることになります。

一時は大きく稼げたとしても、どこかで大きく損をするので、結局手元に利益が残りません。

キツイ話ではありますが、それを腑に落とした人から徐々に成果を出し始めているので

この点について、みなさんも自分の行動を省みながら

変えられる所を徐々に変えていくようにしてみてくださいね。

その絶望的な状況から一早く脱出するための助けになるようにこの思いから

常にこのようなメルマガを書いているつもりですので。